

## IV 教育目標の達成度と教育の効果

### 1. 単位認定

#### (1) 単位認定の状況

単位認定の状況を科目系別にまとめたものが表IV-1 および表IV-2 である。

【表 IV-1 平成 17 年度 音楽科単位認定の状況】

科目体系	履修延 べ人員	単位の取得 %			最終の単位 %				
		本試験	再試験	計	秀	優	良	可	不可
教養に関する科目	509	84.3	7.3	91.6	19.6	25.7	23.5	22.8	8.4
専門に関する科目	1274	93.1	1.3	94.4	11.5	33.1	35.9	13.9	5.6
教職に関する科目	217	89.9	1.4	91.3	20.3	32.3	29.5	9.2	8.7

【表 IV-2 平成 17 年度 科目別評価累積値%】

科目体系	秀以上	優以上	良以上	可以上
教養に関する科目	19.6	45.3	68.8	91.6
専門に関する科目	11.5	44.6	80.5	94.4
教職に関する科目	20.3	52.6	82.1	91.3

各科目とも単位修得率は90%以上である。また評価のレベルを表IV-2の科目別評価累積値で見ると、教養、専門、教職に関する科目とも優以上の評価が約50%を占めている。

専門科目単位修得率は94.4%と最も高く、特に音楽専門科目に強い関心を持ち勉強している傾向が見られる。

最終学年次の「卒業演奏」で、優れた演奏を発表し、高い評価を得た学生は卒業演奏会に出演することができ、この科目の評価を公表した形にしているが、本件については本章の6.特記事項で記述する。

#### (2) 単位認定の方法、単位の取得状況及び担当教員による評価の現状

〔学科長見解〕

単位認定の方法は適切、単位の取得状況及び担当教員による評価の現状については、妥当であると受止めている。本学科では、専門科目の個人指導をはじめ、少人数クラス編成科目が多数を占め、習熟度を考慮した授業展開および学習支援が可能な体制を整えている。加えて、教員の学生の個性に対する細やかな配慮、ならびに授業技術向上を目指す創意工夫が恒常的に行われている。このことが、単位取得率の高さに影響していると受け止めている。また、学生が自身の未熟さを主体的に知ることを促して、人間形成のきっかけを与

えようとする「宗教Ⅰ・Ⅱ」や大学生の基本的な能力や学習の基礎およびコミュニケーション能力形成を支援する「教養基礎」「外国語科目」等の教養教育における取り組みも、全科目の単位取得率向上に良い影響を与えている、と受け止めている。

### (3) 単位認定の方法、単位の取得状況及び担当教員による評価の現状

〔学長見解〕

単位の認定方法については1.試験(筆記・実技・口述)、2.レポート、3.課題発表、4.平常点、5.公開演奏とこれらを組み合わせた方法等でなされており、それぞれ教科の内容により適切な方法で認定されている。単位の取得状況については(1)で述べたように良好といえる。また教員による評価の現状についても厳正に行なわれている。

## 2. 授業に対する学生の満足度

### (1) 学生の満足度調査

本学では、「学生の満足度」の調査を直接の目的とした調査は実施していない。しかし、「授業評価アンケート」(平成17年度後期から「授業改善のためのアンケート」に変更、以下本章ではアンケートと記す)には、授業に対する満足度に関する調査項目を設けている。この調査は平成13年度から継続して実施している。また、教員が個々の授業で使用する出席カードには、授業の理解度を問う項目とともに、学生が自由に意見を記述する欄を設けて、学生の満足度について把握できるよう配慮している。

#### 1. アンケートの実施

アンケートは大別して、レッスン用と授業用の2種類がある。レッスン用アンケートは、専修実技、副科ピアノなどの個人レッスンに対するもので、年度末の成績返却時に行っている。一方レッスン以外の授業については、各期の最終授業日に、教員が配付、回収しており、アンケートの定期的な実施は定着している。

#### 2. 調査の概要

調査内容は「授業改善のためのアンケート」と題し、学生には成績評価とは全く関係無い事を説明し、質問項目は、1)学生自身について、2)授業について、の大きくは2項目に分けている(質問内容についての詳細は参考資料3「授業改善のためのアンケート」を参照)。各期にこのアンケートを実施することにより、学生の勉学意欲並びに授業への要望に応え、理解しやすく内容の充実した授業が展開できるよう参考にしていく。この回答は選択方式と記述式になっており、学生が講義、各演習科目の授業を受けて要望や感じた事を、素直に記述できるよう配慮している。

スケジュール短縮と早期分析の観点から、回収後の集計作業は、業者に委託している。アンケートの分析結果は、直ちに各科目担当者に返却し、教員側はアンケートに対する改善策を毎年発行される『教育と研究』(参考資料5)に記載することとしている。

調査結果は、学生の属性別(所属、学年、専修別)および科目の属性別(教養、専門、教職の区分および講義、演習、実習の区分)に集計し、「学生による授業改善アンケート集計結

果報告書」(参考資料 3)にまとめて報告し、さらに科目別、教員別に集計した結果を各科目担当教員に配付している。

## (2) 授業終了後の学生の満足度に対する配慮

〔学科長見解〕

本学科には、少人数編成の授業、個人レッスンが多く、意思疎通が図りやすいため、満足度への配慮は自然な形でなされることが多かった。教員が学生の理解度を測り教育効果を高める目的で、授業終了時に感想や質問を自由記述させることは以前にも行われていたが、アンケートが定着してきた今、教員の学生の満足度に対する配慮はさらに高まっている、と受止めている。

## (3) 授業終了後の学生の満足度に対する配慮

〔学長見解〕

アンケートの結果を当該教員に渡し、自主的改善を求めていることもあり、改善されている。少人数の授業と音楽専門に関する科目が多いこともあり満足度は良好である。

## 3. 退学、休学、留年等の状況

### (1) 退学、休学、留年者数

退学者数は年度により異なるが、本学では担任制度を設け退学者を出さないよう支援している。

### (2) 退学の理由と退学者、休学者及び留年者に対する指導の現状

退学の理由は、【表 IV-4】のとおりである。

退学者数は年度による変動が多く、退学の理由も同様であるが、過去 3 ヶ年の退学理由としては、進路変更が最も多い。

進路変更を理由とした退学も、その要因は個々多様である。休学、留年についても、その要因は同様の傾向にある。

休学、退学希望者には、必ず担任教員が個別に面談して、その理由を調査するとともに、要因を取り除くために必要であれば保護者や学生担当教員、教育支援室職員等を交え指導や対応を行うこととしている。この指導や相談は、単に休学や退学を思い止まらせることを目的としたものではなく、むしろ、本人にとって最善の決定は何かを本人や保護者と話し合い確認することを目的としている。従って、休学や退学が本人にとって最善の道であるとの結論に達した場合に、休学や退学の手続きを行うこととしている。

留年者に対するケア体制として、留年者学費減免制度と個別オリエンテーションがある。留年者学費減免制度は、留年者に対して、留年後の履修登録単位数に応じて学納金を減額する制度である。

また個別オリエンテーションは、留年生の履修登録に際し、個別に履修指導を行うものであり、履修登録漏れの防止や勉学への動機付けの機会としても有効に機能している。

本学は授業への出席状況の把握や、保護者懇談会の実施等、学生の動向や保護者との連携に特に留意しており、そのことが結果的に休学、退学、留年の防止対策となっている側面も見逃せない。

### (3) 退学、休学、留年等の現状

〔学科長見解〕

休学、退学の理由は、病気や経済的な事情等を背景とした止むを得ないものが多く、個別に見れば、致し方ないと受け止めている。教職員が、学生と保護者の心情を受容した指導や問題の解決に努め、学生の将来を視野に入れたアドバイスやサポートを行っており、限られた選択肢のなかでの最善策がとられている、と受け止めている。

また、平成 17 年 12 月、教育改革推進委員会のもと、休退学低減対策検討プロジェクトを立ち上げた。現在、具体策を検討し、実施に掛かる段階である。

### (4) 退学、休学、留年等の現状

〔学長見解〕

退学・休学・留年者数は本学の教育の現われととらえ、常にきめ細かい指導に当ることになっている。平成 17 年度には教育改革推進委員会でその原因等を分析し「休退学低減への提言」がなされた。今後はこの提言をもとに進めていく予定である。

## 4. 資格取得の取組み

### (1) 教職免許以外の資格

進路指導の一環として、各種資格取得希望者の通常授業外の時間帯に、音楽講師対策講座として、ヤマハ、カワイ、ローランド各社のピアノ、電子オルガングレード取得講座（グレード教室）を設けている。その他の課外講座を含めた過去 3 年間の受講者数、合格者数は【表 IV-5】のとおりである。

上記以外にも、日本伝統芸能レッスン(箏、長唄囃子、日本舞踊)、英語研究会(TOEIC、TOEFL)、保育士資格取得研究会、小学校教員資格認定試験対策講座、公務員試験対策講座等も開講し、将来展望も視野に入れて勉学できる指導体制を整えている。

【表 IV-5 進路支援室課外講座受講者一覧表】

講座名称		平成 17 年度	平成 16 年度	平成 15 年度
	種 類	合格者数/受講者数		
音楽教室講師 グレード取得講座 (グレード教室)	ヤマハピアノ	5/14	5/6	7/23
	ヤマハ電子オルガン	5/9	2/7	1/12
	ヤマハ指導グレード	7/23	1/13	2/35
	ローランド電子オルガン	0/1	0/1	0/0
	カワイピアノ	3/3	1/1	2/8
	カワイ電子オルガン	0/2	0/1	0/4

カラーコーディネーター資格取得研究会	1/1	0/0	1/1
音楽技能検定受験講座	15/19	4/12	-
PSTA 指導者講座・グレード試験官認定講座	2/2	3/3	-

- (2) 今後導入を検討している免許・資格  
博物館学芸員資格取得について検討している。

## 5. 学生による卒業後の評価、卒業生に対する評価

### (1) 専門分野への就職

本学を卒業してからのキャリアについて大別したものを【表 IV-6 過去3年間の進路先】に示した。

過去3年間では楽器店を希望する学生は減少傾向にあり、留学・進学が増加が見られる。留学・進学の増加は、アンケートの結果にも現れていたように、各教員が授業内容を創意工夫し、学生の音楽に対する関心や意欲を高めた結果であると思われる。

### (2) 卒業生に対する就職先及びその他の進路先からの評価

〔学長見解〕

平成17年度に行った「企業モニターアンケート」(参考資料12)からは全般的に就職先の満足度は満たしている。しかし一部には若干評価の低い企業がある。この原因を分析し、研究・改善する必要がある。

〔学科長見解〕

専門就職(当該学科等で学習した分野に関連する就職)先12社の「企業モニターアンケート」(参考資料12)によれば、特に高く評価された項目として、まじめな仕事振りである、挨拶ができる、協調性がある、思いやりがある、が挙げられる。これらは、本学学生の特長をよく表しており、最も重視され伸ばされるべき特質であると考え、教育を行ってきたことが、社会から評価されたと、受け止めている。前述以外の項目についても、今後高い評価を得られるように、努めていきたい。

### (3) 卒業生に対する「学生時代についてのアンケート」と同窓会との連携

本学卒業生(卒業後2年から10年)を対象に平成17年12月から18年1月にかけて調査会社に依頼し、ヒアリング調査を実施した結果、学生時代には、授業やレッスンはもちろんのこと、その他にも学ぶ事が多くあり満足しているとの評価を得た。

また、本学同窓会から、本学主催の行事(学園祭、ファミリーコンサート、ミュージカル公演等)に生花、寄付等の支援を頂いている。

本学は同窓会に対して年2回の総会開催会場として施設を開放し、在学生と卒業生との交流の場としている。

さらに、卒業生への学内情報の提供として、『作陽学園報』を年2回送付している。

#### (4) 卒業生に対する社会からの評価

〔学科長見解〕

本学卒業生に対しての社会評価は、勤勉、礼儀、協調、専門分野の知識、技術、他者への共感等の観点で高い。一方、説明、企画、創造、ストレス耐性等の観点が弱点とされている。

このような評価の観点からもこれまでの教育活動を見直し、教育目標、教育体制、教育内容の再構築に生かしていくことを考えている。

### 6. 特記事項

#### (1) 編入学希望者への対応

新入生オリエンテーションや各期の履修登録オリエンテーション、編入学試験の前にも希望者を集め編入学についての詳細な説明を度々行っており、日頃の授業やレッスンで教員からの説明も実施している。

音楽学部3年次への編入学を希望している場合、以下の方針で履修するように指導している。

- ①本学で開講される科目のうち、音楽学部の単位として認定される科目の修得。
- ②和声学ⅡやソルフェージュⅡ等、編入後必修となる科目の修得。
- ③声楽専修への編入学を希望する場合は、ドイツ語かイタリア語の修得。

#### (2) 卒業演奏会

本学では、学生の演奏技術並びに研究意欲の向上を図ることを意とし、専修実技の「卒業演奏」で優れた成績を修めた者に対し、卒業演奏会出演の機会を与えている。

#### (3) 新人演奏会への出演

卒業演奏で特に優れた成績を修めた者からオーディションを行い、中四国新人演奏会および岡山新人演奏会への出演者を推薦している。